



参議院選挙で自民党が圧勝した。この勝利は、安倍首相の成長戦略アベノミクスによるが、その実現性を疑問視する国内専門家は多い。経済の門外漢にとっては、アベノミクスをどのように理解しどう評価すべきか、よくわからない。将来のことであり、専門家を含め誰にも正しい予測は困難な問題であるが、国内メディアの取り上げ方には、偏りがあるように思われる。このような場合、海外の見方や評価に耳を傾けるのも一つの方法である。今回は、内外の主要メディアや経済専門家による「Abenomics」の情報入手の具体的な方法について紹介しよう。

第三十七話 統計数値に注意する④

国内外のメディアで Abenomics をチェック

アベノミクスを推進する安倍首相が、次々と繰り出す成長戦略の「具体的な目標数値」に、国内メディアや経済専門家が振り回されている。例えば、「農家の所得倍増」、「国民所得 150 万円増」、「企業の設備投資を年間 70 兆円に」、「インフラ輸出を 30 兆円に」などなど。

これらの数字の信憑性については、多くのメディアや専門家が疑問を投げかけている。ネットで調べるには、{農家の所得倍増}、{農家の所得倍増 アベノミクス}、{国民所得 150 万円増 安倍首相}などとキーワード検索すれば、各種メディアや専門家のコラムから、さまざまな情報が入手できる。

「農家の所得倍増」だけについてみても、NHK（時論公論ほか）、日経・朝日新聞、東洋経済・日経 BP ネットなどなど、テレビ局、大手新聞社、主要雑誌などマスコミの多くが、この問題点を指摘している。

ただ、このアベノミクスの場合、これらの具体的な数値の信憑性についてチェックするだけでなく、安倍首相の成長戦略そのもののチェックが、必要になると言ってもよい。成長戦略の中身とその将来性と実現性について、多面的に調べることが重要になる。特に、国内の主要メディアや専門家の情報だけでなく、海外の主要メデ

ィアや経済専門家からの情報収集が重要になる。

海外メディアが、日本に関心を寄せるのは、2011年3月の東日本大震災の大事故以来とあってよい。アベノミクスの今後の行方は、日本経済だけの問題ではなく、世界経済への影響も大きいからである。

アベノミクスに対するIMF（国際通貨基金）やFRB（連邦準備制度理事会）の見解や、英エコノミスト・フィナンシャル・タイムズ・ブルームバーグなど海外主要メディアの報道は、海外投資家の動向に大きく影響する。

アベノミクスに関する資料を集める上で心がける点は、マスメディアへの政治圧力の動向である。今回の参議院選挙の前と後で、マスコミの報道スタンスが大きく変わっているのはこのためとあってよい。海外メディアからの情報収集が重要なのは、日本政府の圧力がかかり難いためである。

さて、国内の主要記事について網羅的に調べるには、ヤフーのリンクサイトである「トピックス」覧（<http://dailynews.yahoo.co.jp/fc/>）が便利である。

トピック欄には、ニュース一覧「安倍政権の経済対策」が用意されており、新聞紙や週刊誌の記事へのリンク（この記事を書いている時点で、500件）が張られている。このニュース一覧が便利で重要なのは、時系列の順に資料が入手できる点である。アベノミクスへの見方や評価は、時々刻々変化しているからである。

このアベノミクスを調べるのに、最も便利であり重要なのがウィキペディアである。それは、アベノミクスの紹介、アベノミクスを取り巻く日本経済の事情や歴史だけでなく、政府・野党の立場や見解、海外のさまざまな反応（賛成・反対）、そして、情報源への膨大なリンク集が、掲載されているからである。

アベノミクスをウィキペディアで調べてみると、安倍とエコノミクスを合わせた造語で、2012年11月から多用され始めた言葉であり、ドイツ語、英語、フランス語で、「Abenomics」と表記されているという。

アベノミクスについての海外の関心の高さを反映して、英語版のウィキペディアには、「Abenomics」の見出しで、内容が紹介されている。この中のCriticismの項目には、批判的見解を述べている専門家の氏名も記載されており、その名前を頼りにして、更に、そのウェブサイトで詳しく批判内容を調べることが大切である。

また、グーグルで、{アベノミクス site:ja.wikipedia.org}としてウィキペディアのサイト内検索を行うと、アベノミクスに関する経済の出来事から、アベノミクス言及している内外専門家の氏名まで、簡単に入手出来る。

日本のメディアは、『海外メディア「アベノミクスに厳しい目」=金融政策偏重に市場が不信感』といった記事を掲載することが少なくないが、この読み方には注意が必要である。読者にとって海外記事の引用紹介は便利であるが、オリジナル記事に再度アクセスすることが大切である。例えば、ある要約紹介記事の見出しは「[FT]アベノミクスが危険なこれだけの理由」であるのに対して、オリジナル記事の見出しは「'Abenomics' is not enough to rescue Japan」となっている。